



開館15周年記念

鎌倉・川喜多邸を訪れた映画人

東京物語
東京画
黄色いからす
結婚式・結婚式
愛情の決算
千羽鶴
日も月も
辻が花

映画監督・田坂具隆

月よりの使者
陽のあたる坂道
五人の斥候兵
女中ッ子
冷飯とおさんとちゃん

神奈川ニュース映画協会の記憶

横浜・川崎篇(私たちの横浜港、立体化工事始まる 川崎駅前 ほか)

鎌倉篇(神奈川ニュースに残された鎌倉 ほか)



『月よりの使者』撮影中のスナップ



企画展関連上映

開館15周年記念

鎌倉・川喜多邸を訪れた映画人

開館15周年を記念した本展の関連上映では、川喜多邸別邸を訪れた「笠智衆」「ヴィム・ヴェンダース」「田中絹代」「今日出海」の関連作と、鎌倉文士原作・鎌倉を舞台にした映画を上映します。



旧和辻邸の書斎にて 川喜多長政、かしこ

小津安二郎 × 笠智衆 × ヴィム・ヴェンダース



©1953/2017 松竹株式会社

東京物語

4Kデジタル修復版
〈英語字幕付上映〉

11.1 (土) 10:30

10.28 (火)、30 (木)、11.2 (日) 14:00

1953年／松竹／白黒／135分／DCP
監督：小津安二郎 出演：笠智衆、東山千栄子、原節子、山村聡、杉村春子、三宅邦子、香山京子、中村伸郎

尾道から上京し東京に暮らす子供たちを訪ねた老夫婦が、都会のせわしなさの中で、戦死した次男の嫁の優しさに安らぎを見出していく小津映画の代表作。1957年、ロンドンの「日本映画シーズン」で初めて国外上映され批評家に激賞された。



© Wim Wenders Stiftung 2014

東京画

2Kレストア版

11.2 (日) 10:30

10.29 (水)、31 (金)、11.1 (土) 14:00

1985年／西ドイツ＝アメリカ／カラー／92分／DCP 監督：ナレーション：ヴィム・ヴェンダース 出演：笠智衆、厚田雄春、ヴェルナー・ヘルツォーク、クリス・マルケル

敬愛する小津安二郎が描いた“東京”を求めて、ヴェンダースが「東京物語」から30年後の近代化した東京を彷徨う旅日記。小津作品に欠かせない俳優、笠智衆との対話が鎌倉・川喜多邸別邸で行われるなど、川喜多家との縁が深い1作。

田中絹代 JAPAN FOUNDATION 国際交流基金



©1957 松竹株式会社

黄色いからす

〈英語字幕付上映〉
*国際交流基金所蔵作品

11.11 (火)、14 (金) 10:30

11.12 (水)、15 (土) 14:00

1957年／歌舞伎座／カラー／103分／35mm
監督：五所平之助 出演：淡島千景、伊藤雄之助、設楽幸嗣、田中絹代、久我美子、多々良純

戦後、長い抑留生活を経て復員し社会になじめない父親と、初めて会う父親に戸惑い疎外感を味わう息子を通して、家族の危機と再生を描いたホームドラマの秀作。鎌倉彫の博古堂主人を田中絹代が演じ、かつての鎌倉の素朴な風景が味わえる。



©1963 松竹株式会社

結婚式・結婚式

11.13 (木)、16 (日) 10:30

11.11 (火)、14 (金) 14:00

1963年／松竹／カラー／94分／35mm
監督：中村登 原作・脚本：松山善三 出演：岡田茉莉子、岩下志麻、田中絹代、伊志井寛、田村高広、川津祐介、佐田啓二

父親の喜寿を祝うため鎌倉の家に集まった一家が、結婚をめぐって大騒動を繰り広げるホームドラマ。松竹のスターが勢ぞろいし、小津映画の名カメラマン・厚田雄春による撮影など松竹らしさ溢れるにぎやかで楽しい1作。

今日出海



©1956 TOHO CO., LTD.

愛情の決算

11.12 (水)、15 (土) 10:30

11.13 (木)、16 (日) 14:00

1956年／東宝／白黒／113分／35mm
監督：佐分利信 原作：今日出海「この十年」 出演：原節子、佐分利信、三船敏郎、小林桂樹、八千草薫、田中春男

小説・評論など幅広く活躍した鎌倉文士・今日出海の小説を映画化。戦争で夫を失い戦友の一人と再婚するも、やがて別の戦友と関係を持つ、不貞の人妻を原節子が演じる。戦争の影を背負った再婚相手を演じる佐分利信が監督も務めた作品。



©KADOKAWA1953

千羽鶴

11.18 (火)、21 (金) 10:30

11.19 (水)、22 (土) 14:00

1953年／大映／白黒／111分／35mm
監督：吉村公三郎 原作：川端康成 出演：木暮実千代、乙羽信子、木村三津子、杉村春子、森雅之

川端康成が数年かけて断続的に発表した戦後の代表作を映画化。鎌倉・円覚寺の茶会で、今は亡き愛人の息子と出会い強く惹かれていく女性と、彼女をめぐって展開する愛憎劇を、茶の湯の主題とともに描く。1969年にも映画化された。



©1969 松竹株式

日も月も

11.20 (木)、23 (日・祝) 10:30

11.18 (火)、21 (金) 14:00

1969年／松竹／カラー／98分／35mm
監督：中村登 原作：川端康成 出演：岩下志麻、森雅之、久我美子、中山仁、石坂浩二、笠智衆

父と二人鎌倉に暮らす娘が、自分を捨てた恋人や、父を捨てて出奔した継母との関係に傷つき、悲しみを背負いながらも日々を生きていく姿を描く。ノーベル賞受賞直後の原作者・川端康成が江ノ電の乗客として顔を見せている。



©1972 松竹株式

辻が花

11.19 (水)、22 (土) 10:30

11.20 (木)、23 (日・祝) 14:00

1972年／松竹／カラー／88分／35mm
監督：中村登 原作：立原正秋 出演：岩下志麻、佐野守、中村玉緒、宝生あやこ、松坂慶子、笠智衆

鎌倉の呉服店で働く女性が夫の裏切りに遭い、周囲の目と年下の男性の間で揺れ動く姿を描いた、鎌倉文士・立原正秋による短編の映画化。モチーフである“辻が花”は、室町から安土桃山時代にかけて一世を風靡した絞り染めの技法。

映画鑑賞料金 一般1,300円 小・中学生：650円（展示観覧料を含む）

チケット販売場所 鎌倉市川喜多映画記念館窓口 0467-23-2500

*友の会会員の方は、電話予約が可能です。

チケット発売日 1 ～ 2 : 9月13日(土)

3 ～ 8 : 10月11日(土)

*作品により映像・音声必ずしも良好でないものがあります。
場合によっては上映素材・作品の変更がありますことをご了承ください。
*当館では〈4K〉と記載されている場合でも〈2K〉上映となります。

デザイン：相馬敬徳 (Rafters)

映画監督・田坂具隆

戦前より第一線で活躍し、『五人の斥候兵』(1938年)が日本映画初の国際映画祭受賞作となった映画監督・田坂具隆。広島で被爆し、戦後は闘病生活を余儀なくされながらも、約半世紀にわたり各映画会社で作品を遺しました。命日の10月17日から始まる本特集では、小さく弱い存在に寄り添い、誠実な眼差しを向けた田坂監督の代表作を上映します。

*9月30日(火)より、特集終了までの期間、田坂具隆旧蔵資料のミニ展示を行います。

特別上映 10.26(日) 13:30~『女中ッ子』+トークイベント

田坂具隆(ぐりゅうさん)と午牛会のこと

午牛会の皆様(笹沼真理子さん、佐崎順昭さん、佐藤千紘さん)

日本を代表する映画監督でありながら、長らく再評価の機会に恵まれなかった田坂具隆。監督の顕彰、資料の収集・管理を担っている「午牛会」の皆様にご登壇いただき、午牛会の活動内容や監督初の書籍刊行のこと、田坂作品の魅力について語っていただきます。

チケット発売日 9.13(土)

映画鑑賞料金 一般1,300円 小・中学生:650円(展示観覧料を含む)

特別上映 一般1,900円 小・中学生:950円(展示観覧料を含む)

活弁+生演奏付き 一般2,500円 小・中学生:1250円(展示観覧料を含む)

活弁+生演奏付き上映 10.18(土) 13:00~

月よりの使者 *国立映画アーカイブ所蔵作品

澤登 翠さん × 湯浅ジョウイチさん 上映後、ミニトークつき

当館で年に1度実施している、活動弁士による無声映画の活弁付き上映。今回は、澤登翠さんの活弁に加え、湯浅ジョウイチさんによるギターの生伴奏付きで上映します。国立映画アーカイブ所蔵の貴重な35mmフィルムでお楽しみください。



1934年/入江ぶろ=高田稔プロ=新興キネマ/白黒/147分/35mm 監督:田坂具隆
原作:久米正雄 脚本:木村千足男 出演:入江たか子、高田稔、水原玲子、菅井一郎

鎌倉文士・久米正雄による原作を、当時人気絶頂だった入江たか子と高田稔のコンビで映画化し、大ヒットしたメロドラマ。舞台は信州の高原にあるサナトリウム。美貌の看護師と療養中の患者が互いに想いを寄せるが…。



陽のあたる坂道 *途中休憩あり

10.17(金)、25(土) 10:00

10.21(火)、23(木) 13:00

1958年/日活/白黒/209分/35mm
監督・脚本:田坂具隆 原作:石坂洋次郎 脚本:池田一朗 出演:石原裕次郎、北原三枝、芦川いづみ、川地民夫、轟夕起子

ジェームズ・ディーン主演『エデンの東』に着想を得た大作。屈折を抱えて生きる青年が、妹の家庭教師との出会いによって変化していく姿を描く。日活時代の田坂は石原裕次郎を数多く起用し、太陽族映画とは異なる若者像を作り出した。



五人の斥候兵

10.21(火)、23(木) 10:30

10.17(金)、25(土) 14:30

1938年/日活多摩川/白黒/72分/Blu-ray
監督・原作:田坂具隆 脚本:荒牧芳郎 出演:小杉勇、見明凡太郎、伊沢一郎、井染四郎、長尾敏之助

日中戦争で前線に偵察に出た5人の兵士たちの絆を描き、そのヒューマニズムが高く評価された作品。原作の高重屋四郎は田坂自身である。川喜多夫妻が本作を携え初参加したヴェネチア国際映画祭で、「宣伝大臣賞(民衆文化大臣賞)」を受賞した。



女中ッ子

10.19(日)、24(金) 10:30 10.22(水) 14:30

10.26(日) 13:30 [特別上映]

1955年/日活/白黒/142分/Blu-ray
監督・脚本:田坂具隆 原作:由起しげ子 脚本:須崎勝彌 出演:左幸子、佐野周二、轟夕起子、東山千栄子、伊庭輝夫、穴戸錠

東北の寒村から上京しお手伝いさんとなった少女が、一生懸命に働く中で家庭の空気を変え、問題児の息子と心を通わせていくホームドラマ。雪深い東北の文化や風土が丁寧に描かれる。浣刺とした演技を見せた左幸子の出世作。



冷飯とおさんとちゃん

10.26(日) 10:00 10.22(水) 10:30

10.19(日)、24(金) 14:00

1965年/東映京都/カラー/178分/35mm
監督:田坂具隆 原作:山本周五郎 脚本:鈴木尚之 出演:中村錦之助、入江若葉、三田佳子、新珠三千代、森光子、渡辺美佐子

江戸の庶民の暮らしを描いた山本周五郎の短編を「冷飯」「おさん」「ちゃん」のオムニバスとして映画化。3役を見事に演じ分けた中村錦之助をはじめ、田坂によって演技が飛躍的に伸びた役者たちから全幅の信頼を置かれた監督であった。

神奈川ニュース映画協会の記憶

神奈川ニュース映画協会は戦後の混乱期から復興期に移行しつつあった1950年に設立され、2007年まで神奈川の文化と風景を記録しました。今年2025年は神奈川ニュース映画協会の設立75年の節目にあたります。今回は同協会製作の「神奈川ニュース」と記録映画を中心に、〈横浜・川崎篇〉・〈鎌倉篇〉の2つのプログラムからなる上映会を開催します。

料金 無料(要企画展観覧料) チケット配布開始日 10.11(土)

企画協力(敬称略): 細見葉介、鎌倉市中央図書館、川崎市映像アーカイブ、横浜都市発展記念館
*カラー作品には、上映素材であるフィルムの退色が進んでいるものが含まれます。ご了承ください。
*(『鎌倉開府八百年記念祭』のみ製作元不明、そのほか作品は神奈川ニュース映画協会製作)

プログラムA〈横浜・川崎篇〉全7作品 約65分/デジタル上映

11.7(金)、9(日) 10:30 11.8(土) 14:00+アフタートーク

所蔵:横浜都市発展記念館

『市政の歩み』(1954年/42分) 『私たちの横浜港』(1956年/9分)

『こども三題』(1958年/約2分) 『スタンプラリーでヨコハマ再発見』(1988年/約2分)

所蔵:川崎市映像アーカイブ

『立体化工事始まる 川崎駅前』(1965年/約2分) 『ミューザ川崎シンフォニーホール』(2004年/約2分)

『藤子・F・不二雄ミュージアム(仮称)開館プレイベントみんなのドラえもん展』(2007年/約2分)

プログラムB〈鎌倉篇〉全3作品 約70分/所蔵:鎌倉市中央図書館/途中休憩あり/16mm上映

11.8(土) 10:30 11.7(金)、9(日) 14:00

『鎌倉開府八百年記念祭』(1982年/15分) 『大佛』(1971年/27分)

『神奈川ニュースに残された鎌倉』(1984年/24分)

11.8(土) 14:00~

プログラムA〈横浜・川崎篇〉+アフタートーク

神奈川ニュース映画協会の時代1950~2007

細見葉介さん

「神奈川ニュース映画協会の時代1950~2007」著者

料金:無料(要企画展観覧料)

神奈川ニュース映画協会について関係者への取材や研究・調査を続けてこられた細見さんをお招きして、同協会の歴史と果たした役割についてお話を伺います。



Filming Schedule

10月	シネマセクション 映画監督・田坂具隆 チケット発売日 9.13(土)	17 (金)	10:00 陽のあたる坂道(209分) *途中休憩あり	14:30 五人の斥候兵(78分)+上映解説
		18 (土)		13:00 月よりの使者【活弁・生演奏付き上映】(147分)+ミニトーク
		19 (日)	10:30 女中ツ子(142分)	14:00 冷飯とおさんとちゃん(178分)
		20 (月)	休館日	
		21 (火)	10:30 五人の斥候兵(78分)	13:00 陽のあたる坂道(209分) *途中休憩あり
		22 (水)	10:30 冷飯とおさんとちゃん(178分)	14:30 女中ツ子(142分)
		23 (木)	10:30 五人の斥候兵(78分)	13:00 陽のあたる坂道(209分) *途中休憩あり
		24 (金)	10:30 女中ツ子(142分)	14:00 冷飯とおさんとちゃん(178分)
		25 (土)	10:00 陽のあたる坂道(209分) *途中休憩あり	14:30 五人の斥候兵(78分)
		26 (日)	10:00 冷飯とおさんとちゃん(178分)	13:30 【特別上映】女中ツ子(142分)+トークイベント
11月	企画展関連上映 鎌倉・川喜多邸を訪れた映画人 チケット発売日 9.13(土)	28 (火)		14:00 東京物語(135分)
		29 (水)		14:00 東京画(92分)
		30 (木)		14:00 東京物語(135分)
		31 (金)		14:00 東京画(92分)
		1 (土)	10:30 東京物語(135分)	14:00 東京画(92分)
		2 (日)	10:30 東京画(92分)	14:00 東京物語(135分)+映画談話室
	神奈川ニュース映画 協会の記憶 チケット配布開始日 10.11(土)	7 (金)	10:30 プログラムA 横浜・川崎篇(約65分)	14:00 プログラムB 鎌倉篇(約70分) *途中休憩あり
		8 (土)	10:30 プログラムB 鎌倉篇(約70分) *途中休憩あり	14:00 プログラムA 横浜・川崎篇(約65分)+アフタートーク
		9 (日)	10:30 プログラムA 横浜・川崎篇(約65分)	14:00 プログラムB 鎌倉篇(約70分) *途中休憩あり
	企画展関連上映 鎌倉・川喜多邸を訪れた映画人 チケット発売日 10.11(土)	11 (火)	10:30 黄色いからす(103分)	14:00 結婚式・結婚式(94分)
		12 (水)	10:30 愛情の決算(113分)	14:00 黄色いからす(103分)
		13 (木)	10:30 結婚式・結婚式(94分)	14:00 愛情の決算(113分)
		14 (金)	10:30 黄色いからす(103分)	14:00 結婚式・結婚式(94分)
		15 (土)	10:30 愛情の決算(113分)	14:00 黄色いからす(103分)
		16 (日)	10:30 結婚式・結婚式(94分)	14:00 愛情の決算(113分)
		18 (火)	10:30 千羽鶴(111分)	14:00 日も月も(98分)
		19 (水)	10:30 辻が花(88分)	14:00 千羽鶴(111分)
		20 (木)	10:30 日も月も(98分)	14:00 辻が花(88分)
		21 (金)	10:30 千羽鶴(111分)	14:00 日も月も(98分)
		22 (土)	10:30 辻が花(88分)	14:00 千羽鶴(111分)
		23 (日・祝)	10:30 日も月も(98分)	14:00 辻が花(88分)

ギャラリートーク：10.26(日)、11.16(日) 各日13:00～

展示のみどころについて、学芸員が解説します。
※終了後、希望者のみ旧和辻邸見学ツアーあり(約10分)

上映解説：10.17(金)『五人の斥候兵』上映後

上映作品について、学芸員が解説します。

映画談話室：11.2(日)『東京物語』上映後

スタッフが進行役となり、解説も盛り込みながら映画について
皆さまと語り合う時間です。



旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)

当館敷地内に建つ旧和辻邸をご覧いただけます。

解説付き見学会(要展示観覧料)

企画展会期中の毎月第2・第4土曜日13:00～(約20分)

一般公開(無料)

10月4日(土)、5日(日) 各日10:00～16:00

特別公開(要展示観覧料)

11月1日(土)～3日(月・祝) 各日10:00～16:00

*一般公開、解説付き見学会は土間までの入場となります。
特別公開は靴を脱いで邸内をご覧いただけます。
*いずれの公開も天候等の事情により中止となる場合があります。



Kamakura City Kawakita Film Museum 鎌倉市川喜多映画記念館

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-2-12

0467-23-2500

開館時間：9:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館：月曜日(10月13日、11月3日、11月24日は開館)、10月14日(火)、11月4日(火)

主催：川喜多・KBSグループ(鎌倉市川喜多映画記念館指定管理者)

※駐車設備がありませんので、公共交通機関をご利用ください。
※席数、入館時間等は状況により変更する場合がございます。
詳しくはお問合せください。

<https://kamakura-kawakita.org>



企画展

開館15周年記念

鎌倉・川喜多邸を訪れた映画人

2025年8月2日(土)～11月24日(月・振)

展示観覧料 一般:300円、小・中学生:150円

*展示観覧料無料:11月3日(月・祝)
どなたさまも無料でご覧いただけます。

